

広報 すぎなみ

Suginami



みどり豊かな 住まいのみやこ

3/15
令和6年(2024年)
No.2374

「切る」が生み出す
幻想的な絵の世界。

繊細な線の表現と透明感あふれる美しい色使いで、見る人を幻想的な世界へと誘う。そんな唯一無二の切り絵作品を手掛けるのが、切り絵作家・佐川綾野さんです。京都でキャリアをスタートし、5年前に拠点を西荻窪に移して活動中。作品に込めた思いや切り絵の楽しさなどを、西荻窪のアトリエでお聞きました。



特集

人
すぎなみピト

佐川
切り絵作家

綾野

〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1 | ☎ 3312-2111(代表) FAX 3312-9911(広報課直通) | 🌐 区ホームページ: <https://www.city.suginami.tokyo.jp/> | 📄 発行: 杉並区 | 📝 編集: 広報課



「広報すぎなみ」は月2回(1・15日)発行。新聞折り込みでの配布のほか、区施設・区内各駅などの広報スタンドに置いています。入手が困難な方には個別配布をしています。ご希望の方は、電話・ファクス・Eメール・LoGoフォームからお申し込みください。

詳細は、区ホームページ(右2次元コード)をご覧ください。





プロフィール：佐川綾野（さがわ・あやの）静岡県生まれ。中学生の頃から独学で切り絵の制作を始める。京都府の美術大学で版画を学び、卒業後再び切り絵の世界へ。著書に「はじめてでもできる心が整う癒しの切り絵」（ナツメ社）、「そのまま切って飾れる きれいな5色の切り絵帖」（ホビージャパン）など。西荻窪のアトリエで切り絵教室を開いたりSNSで切り絵動画を配信したりするなど、切り絵の魅力発信にも積極的に取り組んでいる。

西荻窪のまちの充実感は、私に創造的な刺激を与えてくれます

木版画をきっかけに、見よう見まねで切り絵を始めた

—いつ頃に何がきっかけで切り絵を始めたのですか？

子どもの頃、学校に飾ってあった木版画の作品を目にして、自分も作ってみたいと思いました。ですが、木版画には道具がたくさん必要で難しかったので、木版画と似ている切り絵を作ってみようと思ったのが始まりです。当時は中学2年生。その年頃ならではのエネルギーでどっぴりと制作に励み、高校時代にはかなり大きな作品も作っていました。



—その後、大学では木版画を専攻されたそうですね。

京都の美術大学の版画科へ進学し、在学中は切り絵ではなく木版画に力を注ぎました。でも、木版画は材料の版木がとても重くて、削るにもかなりの力があるんです。とても体力を必要とする作業で、疲れてくると重い版木をひっくり返すこともできないくらい。私にとってはその点がなかなか苦しいところでした。卒業後も制作を続けていくに当たり、もう少し気軽にできるものはないかと考えたとき、思い出したのが切り絵だったのです。

切り絵に「ぼかし」の美しさを取り入れて

—切り絵はどのように作っていくのですか？

まず、紙に図案の絵を描き、線や面として残す部分と、切り抜く部分を考えていきます。線を細かく切ると繊細さが表現され、大胆に面を残すと強さが出てきます。どの作品も図案のベースにあるのはファンタジーで、幻想的な物語を切り絵で表現したいという思いが根底にあります。ですから、できるだけ主人公がいる作品、人物が入った図案で切り絵を作りたいと思っていて、人物の表情は制作する中でも特に大切にしているポイント

の一つです。一方で、モチーフについては幻想的なものというよりは、日常の暮らしの中で「これを切り絵にしたらきれいかな」と、ヒントを得ることが多いです。

—佐川さんの作品は、独特の色使いがとても目を引きます。

色付けには和紙を使っていて、色和紙ならではのぼかしを取り入れて色を表現するところは、私の切り絵の最大の特徴と言えるかもしれません。「筆で色を塗っているの？」と聞かれることも多いです。和紙は透過性があるので、光にかざすとステンドグラスみたいですごくきれいなんですよ。

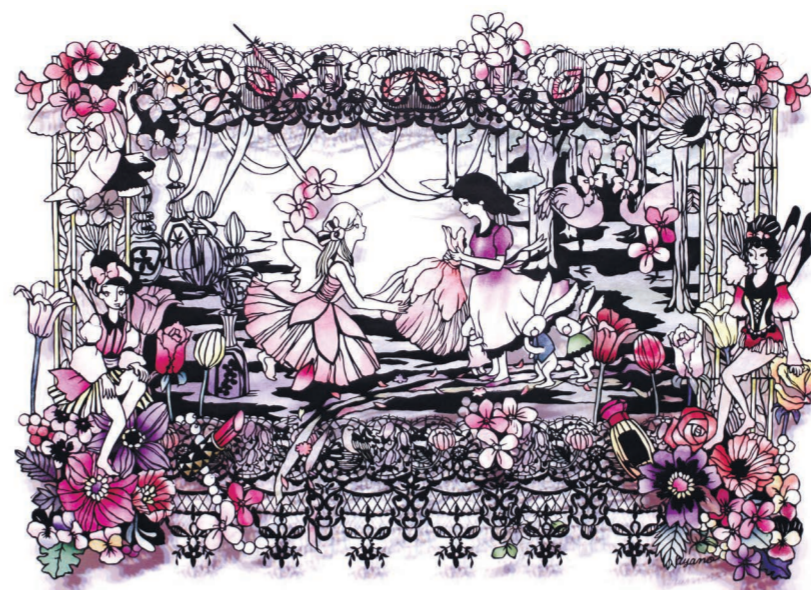
—色の表現に和紙を使うようになったのは、何がきっかけだったのですか？

原点にあるのは木版画です。木版画の作品というのは、刷り上げたときにいかにぼかしの表現がうまくいかが重要視されるのですが、そのぼかしの美しさを切り絵にも取り込めなかつたかと考えたことが、和紙を使うことにつながっています。また、大学時代の恩師が和紙の研究者で、在学中に私も和紙の制作現場へ行く機会があり、そこで作り手の思いに触れた経験も、和紙を大切にしていきたいと考える背景にあります。切り絵作家として活動を始めてからは、日本各地の和紙の産地を訪れて、原料となる植物の刈り入れから経験し、和紙ができていく過程を体感することで、より理解を深めていきました。今は、見たり触ったりするだけで厚さや種類が分かるほど、和紙になじんでいます。



京都から西荻窪へ。拠点を移して作家活動に励む

—京都から西荻窪へアトリエを移された経緯を教えてください。
関西で親しくしていた刺しゅう作家さんが上京して西荻窪にアトリエを構



WORK 01 | 蕾の肯定



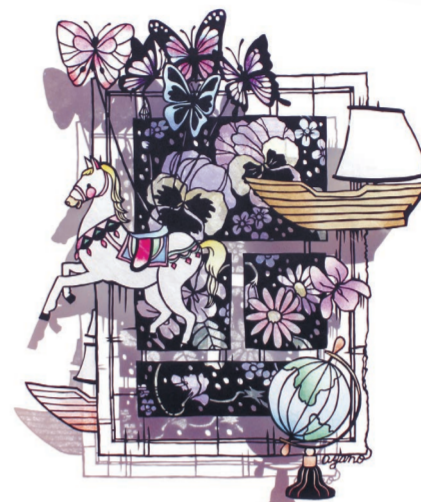
WORK 04 | ユリと女の子



WORK 05 | 白鳥の王子



WORK 02 | ネコと眠る



WORK 06 | 夢のよう



WORK 03 | 聞いたことない



WORK 07 | 憩いの国

えていて、私も時々そこで切り絵教室を開かせてもらっていました。するとある日、その作家さんから電話がきて、「綾野ちゃん、下の部屋が空いたから明日押さえてね！」と声をかけてくれて。突然の出来事でしたが、東京に行って活動の幅を広げたいという思いは以前からあったので、次の日にその部屋を申し込みました。その後、場所は変わりましたが、今も西荻窪のアトリエで制作と切り絵教室を続けています。

—西荻窪の住み心地はいかがですか？

西荻窪はコンパクトでありながら、すごく充実感のあるまちだなと思っています。個人店がたくさんあって、それぞれの個性が垣間見られる魅力的なお店が多いですね。クリエイターも多いし、近所のお店の方とたわいのない話をしている中でも、創造的な感覚を覚えることが多くとても刺激になっています。また、私は食べて飲むことが大好きなので、ディープなお店からカジュアルなお店まで、いろいろな所で西荻ライフを満喫しています。

—切り絵作家としての今後の活動についてお聞かせください。

一時出産でお休みしていましたが、今後は西荻窪での切り絵教室を再開し、制作活動にも力を入れていきたいです。また、以前から取り組んできた、YouTubeなどのSNSを通して切り絵の魅力を伝える活動も引き続き頑張ります。SNSを見た方から「作ってみました」「やってみたら楽しかった」などの声をもらうと本当にうれしくて。私が切り絵を始めた頃は珍しがられましたが、今は少しずつ切り絵が一般的な趣味として浸透しつつあるのかなと思います。

—今回の記事を見て、切り絵に興味を持つ方も増えるかもしれませんね。

簡単な図案でしたら、初心者でも十分楽しめるのでお勧めです。切り進めながら、うまく切れるたびにうれしい、そんなやさやかな喜びの繰り返しを味わえるのが切り絵です。興味がある方はぜひ挑戦してみてください。たくさんの人に切り絵の魅力や作ることの楽しさが伝わり、切り絵を楽しむ人が増えていくといいなと期待しています。

Let's try!

佐川さんに教わる切り絵の作り方!

用意するもの
図案・黒い紙・トレーシングペーパー・色和紙・テープ・デザインカッター・カッターマット・のり など

1
図案を黒い紙に貼り付けて、内側の白い部分・輪郭をカッターで切り取ります。

2
色を付けたい部分にトレーシングペーパーを当てて型を描き取ります。

3
②のトレーシングペーパーを付けたい色の和紙に乗せて切り抜きます。

4
切り抜いた和紙を切り絵の裏からのりで貼り付けて完成!

できあがり!

YouTubeで配信中!

すぎなみビト MOVIE

すぎなみビト「佐川綾野さん」のインタビュー動画を、右2次元コードからご覧いただけます。

杉並区公式チャンネル